

# 大鹿村中央構造線博物館たより 178号



2024年3月発行

TEL: (0265) 39-2205  
staff69@mtl-muse.com

## 徳島の中央構造線

昨年12月に徳島県西部にある三好ジオパーク構想(\*1)の見学に行き、地質専門員の殿谷梓さんに現地を案内していただきました。どうもありがとうございました。三好ジオパーク構想のエリア内にも中央構造線が延びているということで、中央構造線に関するジオサイトがいくつかあります。今回は、そのうち池田断層の断層崖サイトを紹介します(図1, 写真1)。

池田断層は、日本がまだアジア大陸の一部だった時にできた地質の境界断層である「中央構造線」に沿って、近畿~九州にかけて延びている活断層群＝「中央構造線断層帯」を構成する活断層の一つです。「中央構造線断層帯」の個々の活断層の位置は、地質の境界である「中央構造線」とほぼ一致していることもあれば、少し離れた場所に新しく断層を作っていることもあります。これまでの研究により、池田断層の位置は、地質の境界と一致していることがわかっている(\*2)ので、図1の黒い点線は「中央構造線」であるとときに、「中央構造線断層帯」の池田断層でもあります。

池田断層は、博物館たより176号で紹介した野島断層と同じように、主に右横ずれの動きをする断層ですが、上下方向にもいくらかずれ動くことがわかっています(\*2)。写真1の断層崖は、比高が30mほどあり、およそ3万年前からの池田断層の上下方向のずれ動きの累積でできたと考えられています(図2)。

さて、大鹿村でも中央構造線が通っていて、ほぼ中央構造線に沿って活断層が存在すると考えられていますが、断層崖といえるような地形は見られません。この理由として考えられることは、活断層としての活動度が低い、つまり、一度にずれ動く量や頻度が低く、長い間のうちに、地表が侵食されたり埋まったりして、地形に残らなかったことが考えられます。もしくは、ほとんど水平方向のずれ動きのみで、上下方向には、ほとんどずれ動かないという可能性もありそうです。(宮崎)

### 参考文献・参考Webサイト

(\*1) 三好ジオパーク構想Webサイト URL <https://miyoshi-city.jp/geopark/>

(\*2) 岡田篤正(2020)中央構造線断層帯－最長活断層帯(四国)の諸性質－, p244~259, 古今書院。

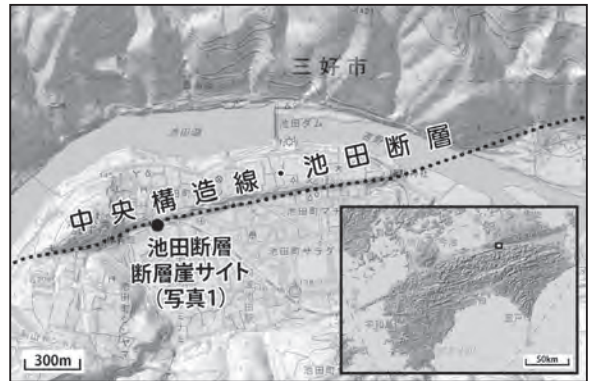


図1 池田断層断層崖サイトの位置  
※地理院地図を利用して作成



写真1 池田断層の断層崖  
※写真手前が南、奥が北

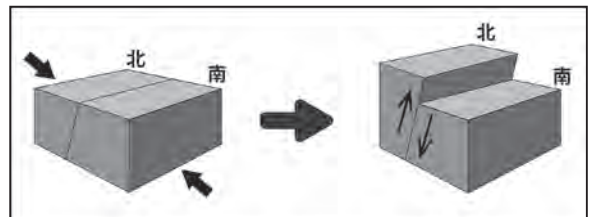


図2 池田断層の断層崖ができるまでの模式図